

令和5年度第3回庄原市「学びの革新」推進協議会

令和6年3月1日(金) 庄原市総合体育館

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

【講話・交流】「各種学力調査について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 藤井 遥



○全国学力・学習状況調査及び庄原市一斉学力調査結果について、全国平均や目標値との比較等の説明を行った。その後、事前課題をもとに改善に向けた取組やその後の状況等について交流を行った。

・「課題に対して立てた改善策の状況」について、類似問題への取組から改善が見られたことや、無回答率が減少したこと等、各校の状況についてグループ交流を行うことで、PDCA サイクルの C&A の取組の大切さを確認できた。

【講話・実践発表・交流】「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業の取組について」

庄原市立板橋小学校 教諭 藤田 玲子

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 片山 博子



庄原市立板橋小学校
の実践事例の展示

○庄原市立板橋小学校における「低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」の1年間の取組を発表した。
・「学びの基盤に関する調査」等の課題に応じた指導や手立てを考え、授業改善に取り組んだ。個に応じた手立てや授業以外での取組を充実することで、指導者の授業力や、児童の学力及び意欲の向上が見られた。

【講話・交流】「全ての児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて」

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 小西 宏明

北部教育事務所 指導主事 田丸 亜紀



○今年度、各校で取り組んだ「本質的な問い」による授業研究について、単元構想シート、学習指導案等をもとに交流を行った。

・児童生徒の「主体的な学び」が実現した姿を具体的に設定することが大切であり、授業研究等により検証をしていく中で、自律的・組織的な授業改善を進めていくことが重要である。

・研究授業を中核とした授業改善サイクル、若手教員の力量向上等、自律的・組織的な校内研修体制の確立が求められる。

【参加者の感想等】

- ◆学力調査の誤答分析やつまずきのある子供達の見取り等について、組織的に取り組むことで、授業力向上につながると思う。他校の実践を参考に授業改善を行っていきたい。
- ◆板橋小学校の取組の流れを、自校の個別の教育支援計画を作成する時の分析や把握、課題、改善策に生かしていきたい。
- ◆他校の実践について校内で共有し、本校で取り入れられそうな取組について協議し、次年度につなげたい。
- ◆単元を構想する時に、目指す児童生徒の姿を具体的に考えておくと、見通しをもった授業づくりができると感じた。